

## 第6回 ありがとう卓越経営大賞——〈特別功労賞 最優秀作〉——

推薦者：Kさん（代表取締役）

推薦された社員：妻と外国人社員さん

### 推薦文

時は2000年、日系ペルー人を初めて契約社員として雇用した。その当時は人手不足、日本人の離職に悩まされていたこともあり、その人を皮切りに知人、親戚関係の人が続々と入社した。気づいた時には30人を超えていた。言葉の問題、価値観の違いなどで色々な問題が起きた。ここでは書けないようなトラブルにも見舞われた。それでも妻が外国人であることもあり、彼女自身が26歳で日本に来た時の不安と苦労を重ね合わせながら、外国人社員一人ひとりに誠実に、時には厳しく、時には包み込むような思いで接してきた。その甲斐あって、数年後には、日本人の社員の人とも関係性が良くなり、良きチームワークで仕事ができるようになってきた。



そんな折、リーマン・ショックの波が弊社に押し寄せてきた。売り上げは半分以下になり、1日分行う仕事がなかった。と同時に新工場の建設も始まり、資金繰りも急激な悪化の一途を辿っていた。国に助成金を申請し、何とか乗り越えていこうと外国人を含めたすべての社員が工場に集まり話し合いをした。

どのようにワークシェアするかと話し合いを始めると、1人の外国人女性が手を挙げ発言した。「社長、私たち外国人を首にしてください。私たちは仕事を求め日本に来ましたが、忙しい時は仕事があり、暇になればすぐ首になりました。解雇を繰り返し体験してきました。そんな体験には慣れていません。また景気が良くなったら雇用してください」と。この発言の後に、ある日本人社員がこのように話した。「今やめたら日本人でも就業が難しいのに外国籍の人が就業するのはもっと難しい。今まで一緒にやってきたのだから、苦しい時ではあるが共にがんばりたい」と。ありがたい思いの中、残ってくれた社員さんと頑張ろうという勇気を私自身も頂き、みんなで一緒に力を合わせていくことになった。

今では新しい工場の壁には、日本、韓国、ペルー、ブラジルの国旗が誇らしげに飾られている。

リーマン・ショック後、すべての外国人は正社員となった。現在は大いに活躍して頂いている。

### 推薦した社員様に伝えたいメッセージ

文面では表現しきれない部分もあるが、妻の外国人社員に対する思い、そしてその真心を受け止めてくれたすべての社員さんのおかげでリーマン・ショックという危機を乗り越えることができました。